

アルコール依存症関係機関 機能向上のためのマニュアル

厚生労働科学研究費補助金
(障害者対策総合研究事業 (障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)))
アルコール依存症に対する総合的な医療の提供に関する研究 研究班作成



はじめに

アルコール依存症の回復には医療機関、精神保健福祉センターや保健所などの行政機関、断酒会、DARC (Drug Addiction Rehabilitation Center)、AA (Alcoholics Anonymous)、MAC (Maryknoll Alcohol. Center)など当事者による自助団体、Al-Anonなど家族や友人などによる自助団体などの関係機関が重要な役割を担っています。

その重要性は平成24年11月から平成25年3月にかけて厚生労働省で開催された「依存症者に対する医療及びその回復支援に関する検討会」でも指摘されています。

そこで、アルコール依存症の関係機関の機能向上のための具体的な取り組みとして、厚生労働科学研究において、アルコール依存症の関係機関の機能向上に不可欠な要素をアルコール依存症患者の視点から抽出するという研究を行いました。

この研究により、患者本人が医療機関に繋がるには、

- ①「最近、飲酒量が増えてきた」と自覚する。
- ②「家族関係が悪くなった」と自覚する。
- ③「まずいなと考えつつも飲酒を続ける」ようになる。
- ④「止めたいけど止められなくなる」ようになる。
- ⑤「家族に説得されてやっと受診する」ようになる。

という経過をたどることが明らかとなりました。

また、これら各ステージにおける関係機関の関わりについて「なるべく早く関係機関に繋がる」ことの重要性が示唆されました。

これらの結果を踏まえ、関係機関の機能向上のためのマニュアルを作成しました。

各関係機関に関わる皆様に、本マニュアルを活用していただき、アルコール依存症の予防、回復に役立てていただければ幸いです。



各ステージにおける関係機関の役割①

「最近、飲酒量が増えてきた」 と自覚するステージ

このステージで関係機関に繋がろうとする人は極めて少ないと考えられます。しかし、その後、アルコール依存症となる可能性が高い人も多いことから、このステージでアルコールに関する教育を行うことが必要と思われれます。

関係機関に関わる方が、保健所などと連携し、一般の人たちへアルコール依存症という病気の啓蒙活動を行っていただくことは、その後のアルコール依存症の発症を予防するという点で重要な意味があります。



各ステージにおける関係機関の役割②

「家族関係が悪くなった」 と自覚するステージ

このステージで医療機関の受診をする人は少ないと考えられます。しかし、このステージにいる人は、アルコールが問題で、同じように家族関係が悪くなってしまった仲間の話は聞きたいと思っているようです。

関係機関に関わる方は、保健所などと連携し、そのような悩みを抱えている方々にお話をしていただくことは、その後のアルコール依存症の発症を予防するという点で重要な意味があります。



各ステージにおける関係機関の役割③

「まずいなと考えつつも飲酒を続ける」 ようになるステージ

このステージで自助グループに繋がっていれば良かったと考える方が多いようです。つまり、このステージが実は関係機関に一番繋がりがやすい時期だと言えます。

アルコール依存症と診断される前段階の人に、関係機関の存在を周知し、できるだけ早く関係機関に繋がれることが重要です。



各ステージにおける関係機関の役割④

「止めたいけど止められなくなる」 よくなるステージ

このステージの人は、アルコール依存症と診断されることへの不安が強く、医療機関への受診に抵抗を示すようです。

この時期は無理やり医療機関を受診させるよりも、関係機関の方がお話を聴くなどして不安を取り除き、できるだけ早く関係機関に繋げることが重要です。



各ステージにおける関係機関の役割⑤

「家族に説得されてやっと受診する」 ようになるステージ

このステージにいる人は、実は医療機関に繋がって「ほっとする」と感じられるようで、この時期になるべく早く関係機関に繋がれることが大切と思われます。

医療機関と連携をして情報の共有を行い、可能な限り早急に関係機関に繋がる体制を整えることが必要です。



より早く関係機関に繋がるために

関係機関との繋がりに関しては、研究の結果、次のような意見が得ることができました。

- もっと**早い時点**で、関係機関に繋がれたら良かったかもしれない。
- 医療機関から関係機関を紹介されたが、すんなりと訪問する気にはなれなかった。
- 関係機関ではどのようなことをするのかわからず不安を感じた。
- ミーティングに一回行って見て「これは合わないな」と感じた。
- 初めてのミーティングの帰り際に「どうでしたか？」と声をかけてもらい**気が楽**になった。

このことからわかるのは、**早い時点で関係機関に繋がることは大切**だけれども、関係機関というものがどういうことをするところなのかよくわからないために、利用を躊躇しがちだということです。そのためには、関係機関がその活動を周知するだけでなく、医療機関、行政機関などにもどのような活動をしているかということを伝えていただくことが必要でしょう。

また、初めて訪問した人に対し、「**ミーティングに参加してみているかがでしたか？**」などのフィードバックを求めるなどして、親しみやすい雰囲気積極的に作っていただくことが大切です。また、自助グループメンバー同士で「**コミュニケーションスキル**」の練習なども有効かもしれません。



医療機関、行政機関との連携について

アルコール依存症の回復、予防について、関係機関だけでなく、医療機関、行政機関とも**連携した活動**というものはとても重要です。

アルコールの問題を抱えた人が、より早く関係機関に繋がるよう、地域の医療機関、行政機関とともに**情報収集、情報の共有**を行うことはとても有効かもしれません。

また、医療機関、行政機関が、アルコールの問題を抱えている人に関係機関での活動内容を伝えられるよう、日頃から医療機関、行政機関と**定期的に顔合わせを行う**ことも有効と思われます。



おわりに

今まで、アルコール依存症はなかなか回復に繋がりにくい病気でした。

また、その回復には、医療だけでなく関係機関の果たす役割が大変に重要であるにも関わらず、なかなか連携が取りにくいという実情がありました。

是非とも関係機関の皆さんにご協力いただき、このような状況を少しでも良い方向に変えていきたいと研究班一同考えております。

これからも、ご協力をお願い申し上げます。

